

ガクセイイ★ トピックス

松本深志高の校内放送でトーク番組

生徒会活動に関心を

生徒会の情報を分かりやすく伝え、関心を持つ人を増やそうと、松本深志高校(松本市)で、校内放送を使ったトーク番組「トンボFM」が始まった。生徒会長の2年岡部兼也さん(17)の発案で放送委員会が制作し、昼休みに流す約8分の番組。生徒会活動の話題を軟らかく押し付けにならないように、内容から音量まで手探りで放送を重ねている。

(長沼佳史)



4月の放送に向けて話し合う岡部さん(左)と藤森さん。奥は土屋さん

自治の押し付けにならぬよう 内容から音量まで手探り続く

「40分だよ、流そう」。2月のある昼休み。放送委員会制作班とアナウンス班の班長の藤森未己さん(18)、機材班長の土屋翔馬さん(17)が、放送室で準備を整えた。「こんにちは。トンボFMの時間です」。軽音楽部員が作ったオリジナル曲に乗せ、1、2年生の教室に放送が流れ始めた。

「量が大きく、会話ができないなど」お昼の時間を台無しにしたくない。皆さんの声をどしどし伝えて」と結んだ。

この日は3回目の本放送。番組は事前収録だ。この日のゲストは生徒会の副会長。パソナリテイも務める藤森さんが、副会長に就いた理由、趣味、特技など硬軟織り交ぜて質問した。

なぜ番組を始めるのか。テスト放送の初回、ゲストの岡部さんは問われ、「生徒会本部と皆さんの間に距離があり、顔や考えが見えづらい。関心を引く情報発信を頑張っていた」と考えた」と答えた。

放送中、藤森さんや土屋さんは、放送室と教室を何度も往復し、音量を調節した。この日の「お便りコーナー」では「音量が小さかった。せつかくやっているのにもつたない」との声を紹介。藤森さんは「放送委員会も悩んでます。皆さんの耳に届けたい情報を発信していますが、(音

「(生徒会役員は)大変そう

で、生徒会室も入りづらい」と突っ込まれると「生徒会室の壁を壊したい」と冗談交じりに語った。

生徒会運営に携わろうと、

同校に進学した岡部さん。奈良県の中学在学中、松本に赴任している父親を通じ、松本深志高を知った。同校を訪ね、校門の前で在校生に話を聞いて、進学を決めた。入学直後から生徒会活動に

取り組んできた。だが生徒の主体性を尊重する校風もあり、生徒会への関心はまちまち。岡部さんは「自治だからどっちでもいいか」と何もし

なかったり、関心を持ってもらえないと決め付けたりするのは違うと思う」と考える。「ラジオで『生徒会が何かやっているんだ』と感じてもらえたら、徐々に状況が変わっていくかもしれない」

昨年10月、番組の構想が動きだし、放送委員会に協力を依頼。内容や運営主体について話し合った。1年間

のドイツ留学から帰り、残りの高校生活は受験勉強に徹しようと考えていた藤森さんが「思いがけず高校生らしいことができる」と力を尽くしている。

♪ ♪

新入生を迎える4月以降が「本番」。自治をテーマにした岡部さんと校長の対談や、部活動紹介などを予定する。「勝負は対談」と藤森さん。それぞれが考える自治の押し付けにならないように気を配り、面白さや醍醐味を伝えられたら」と準備している。